

ふるさと発見！（小・中学生向け）

みやのもり^{がくふ}学府

〈 学区・世帯数・人口 〉令和元年10月現在

たはら 田原小学校区	1,740 世帯	4,351 人
とうぶ 東部小学校区	6,440 世帯	15,074 人
合計	8,180 世帯	19,425 人



田原小学校通学区…玉越、西島、三ヶ野、三ヶ野台、明ヶ島の一部、明ヶ島原、彦島
 東部小学校通学区…西之島、上南田、安久路、城之崎、鎌田、新貝、東貝塚、稗原、東脇、新出、和口、東新屋、おおだての、とうしんちょう、にししかづか、大立野、東新町、西貝塚の一部

みやのもり学府は、田原小学校の全通学区と、東部小学校の通学区の一部をあわせた地域から成り立っています。重要な遺跡や古墳がみられる一方で、大きな工場やスポーツのスタジアムなどがあります。「いま」と「むかし」が共存する、みやのもり学府について調べてみましょう。

●遺跡→①・古墳→②、③、④

縄文時代、今の西貝塚にあたるには、4つの貝塚が集まっています。「西貝塚遺跡」と名づけられたこれらの貝塚からは、貝殻といっしょに、鹿の骨でできた銚先（魚を突く道具）や矢じり（獣を射る道具）などが見つかりました。

また、大きな古墳がいくつもみられることも、この地域の特徴です。堂山古墳からは、靱形埴輪などめずらしい埴輪が発見されました。神明中学校周辺の5基の古墳は、あわせて「御厨古墳群」と呼ばれていて、国指定文化財（史跡）となっています。なかでも松林山古墳はその大きさと副葬品から、静岡県を代表する古墳と考えられています。

明ヶ島古墳群からは人や楽器、動物などの形をした土生模造品が4,000点以上見つかっています。これほどの数が発見されたのはたいへん珍しく、国の重要文化財（有形文化財）となっています。

- ★遺跡・古墳について調べるには
- 『磐田市史 史料編1 考古・古代・中世』（全館）
 - 『図説 磐田市史』（全館）
 - 『磐田の文化財』（全館）
 - 『ここまでわかった三ヶ野・明ヶ島の遺跡』（中央）
 - 『磐田の古墳』（中央・竜洋・福田）

鎌田に2020年春に開業する「御厨駅」の名前は、明治から昭和にかけてのこの地区の村名に由来しています。平安時代、この地域には伊勢神宮の荘園「鎌田御厨」があり、御厨は地区名として現在も親しまれています。



靱形埴輪（『磐田の古墳』より）



●大日堂 古戦場 → ⑤

1572（元龜3）年、徳川家康は武田信玄の軍勢を迎え討とうと三ヶ野坂に陣を構えました。この時、徳川方の武将本多平八郎が、大日山（現在の^{みけの}大日堂のあたり）にあった大松に上り、袋井方面の武田軍を偵察しました。現在は残っていませんが、その松が「本多平八郎物見の松」と伝えられています。

- ★大日堂や本多平八郎物見の松について調べるには
- 『磐田ものがたり』（全館）
 - 『磐田ことはじめ 第1編』（全館）
 - 磐田市立図書館資料案内「磐田を知りたい！調べたい！磐田の戦国武将物語」（全館）

●文化財 医王寺 坊中学校 → ⑥

鎌田にある医王寺は「東海の苔寺」と呼ばれ、734～748（天平年間）年、行基菩薩により建てられたと伝わる真言宗の寺院です。医王寺庭園及び参道は磐田市指定文化財（名勝）になっています。1875（明治8）年遠州三大学校のひとつである坊中学校が住職松村淳高の資金寄付により境内につくられましたが、1909（明治42）年火災により校舎は焼失、現在は淳高をたたえる頌徳碑が坊中学校の敷地跡に建っています。

- ★医王寺や坊中学校、文化財について調べるには
- 『磐田の文化財』（全館）
 - 『いわた文化財ガイド』（全館）
 - 磐田市立図書館（小・中学生向け）資料案内「磐田を知りたい！調べたい！磐田の学校の歴史（遠州三大学校）」（全館）

●田原の耕地整理 → ⑦

名倉太郎馬 1840（天保11）～1911（明治44）年

名倉太郎馬は、1872（明治5）年から川の氾濫などにより多くの被害を受けていた田原村の耕地整理（田の大きさや形、あぜ道、水路を整えること）を、村人と力をあわせて行ないました。田に縄を張りまっすぐに苗を植える「すじ植え」などを行ない日本の耕地整理の先がけとなりました。

- ★名倉太郎馬について調べるには
- 『わたしたちの磐田』（全館）
 - 『磐南平野の金字塔』（全館）
 - 「磐田の著名人一覧」磐田市立図書館 HP
 - <http://www.lib-iwata-shizuoka.jp/hakken/>